

# 「共生社会の実現を推進 するための認知症基本法」を 暮らしに活かし育てるために



認知症基本法でのキーワードの一つに参画があります。商品やサービスを用意する際に、どんな機能を盛り込むか、操作性等、様々な工夫や配慮が必要です。そのためには利用者の声を聴いて創り、課題点を更新し育てることが大切です。商品を使い続けたい、お店や外に出かけてみたい気持ちは生きがいにつながり、企業や社会の発展に還元することにもなります。当事者が参画しながら、共に創る未来の取り組みをノックオンザドア株式会社の眞籠宏一氏から伺いました。

## 第11回 認知症当事者の皆様と共に未来を創る

ノックオンザドア株式会社 ワタシテ事業部 事業部長 眞籠 宏一

私が働くノックオンザドアという会社は「難病患者者家族を世の光に社会にイノベーションを起こす」をミッションに掲げ、多様な社会課題の解決に取り組むIT企業です。

現在当社では、認知症のご本人やご家族から多くの学びをいただきながら、認知症と生きる皆様のより良い暮らしの実現のために、アプリケーションの開発を進めています。

### ●オレンジ・イノベーションプロジェクト

認知症の「当事者と共にサービスを開発する」活動から、2023年より経済産業省主催のオレンジイノベーション・プロジェクトに、当社は企業と当事者をマッチングする事務局として参画しています。

認知症のご本人も自分らしく暮らせる「共生」社会を目指して  
オレンジイノベーション・プロジェクトに  
2024年度も KNOCK ON THE DOOR が参画します!



事務局としての業務を担う中で、当事者の方と共に企画を検討することが、いかに今後の共生社会の実現に向けて必要不可欠なプロセスであるかを、日々実感しております。

### ●当事者の皆様とショッピングモールを散策

2023年12月、私はイオンモール鳥取北店にてオレンジイノベーション・プロジェクトの一環として行われた取り組みに参画しました。これは、認知症のご本人が実際に店舗を訪れ、お買い物をする中で、違和感や不便があった際にはそれを課題として表出していこうという取り組みです。

当日は日本認知症本人ワーキンググループ (JDWG) 代表の藤田和子さんをはじめ、鳥取県在住のご本人7名の方と、そのパートナーの方、イオンの社員の方、私達事務局、総勢29名が、ご本人を中心にチームを組み、各チームが思い思いに店内を回りました。

普段スーツを着用されている方も、この日はカジュアルな服装に。開始前にはチームごとに自己紹介を兼ねたランチをとる。同行者は先導するの

ではなく、ご本人のペースに合わせて一緒に歩く。歩き疲れたら休憩できるように座れる場所を探しながら散策する。など、ご本人がリラックスしてお買い物できることを第一に意識しながら、事務局であ



出典:令和6年度 第1回 認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ資料3 (経済産業省ホームページより)

る私達も一緒に散策いたしました。

「タッチパネルの案内板の使い方が難しい」「会計後に袋詰めする場所がわかりづらい」「この位置にあるトイレが見つげづらい」…。

一緒に店内を散策する中で発せられる様々なご意見に耳を傾けていると、私自身も同じような不便を感じる場面があるということに気づきました。

私達が普段見落としがちで小さな違和感も、もしかしたら認知症のご本人にとっては大きな不自由に映るかもしれません。しかし、それを発見して改善していくことが、認知症のご本人だけでなく、すべての人にとっての暮らしやすさにつながっていくのだと、この取り組みを通じて改めて感じさせられたのです。

## ●取り組みから得られた気づきの共有

散策の時間が終了すると、全員が集合して振り返りを行います。ここでは、靴についているファスナーの開けづらさや、自動精算機の使いづらさ、店内表示のわかりづらさなどの、商品や店舗に関するものから、会計の途中で金額がわからなくなってしまった、ご自身に合ったサイズの洋服を選べなかったなど、ご本人の状況によって感じた困難まで、様々なご意見が挙がりました。それらを全体で共有し意見交換を行うことで、場を提供してくださった店舗の方にも認知症の方が普段感じていることを

## プロフィール



まごめ 眞籠 こういち

ノックオンザドア株式会社  
ワタシテ事業部 事業部長

コンシューマー向けモバイルサービスを提供するIT企業に入社後、ヘルスケアITサービスのプロダクト企画責任者を経て現職。

現在は認知症領域の事業責任者として、認知症に関わる様々な人と「時と場」を共にしながら、新たなサービスを開発中。

認識していただきました。

## ●当事者の皆様と共に創る未来

オレンジイノベーション・プロジェクトの事務局業務や、ショッピングモールでの取り組みを通じて、私達がいかに認知症に対して思い込みや決めつけがあったかに気づかされました。それとともに、当事者の皆様と一緒に検討・開発していくことが、各企業にとって非常に大きな気づきにつながることを、いつもそばで痛感しております。そのプロセスを経て開発・改善されたサービスは、きっと認知症のご本人だけでなく、多くの人にとってより良いサービスになるはずです。

当事者だからこそ見える世界には、私達には見えないたくさんの発見があります。

皆様から受け取ったその声から、商品やサービスの開発を企業が進め、社会に還元していくことは、共生社会の実現に近づくために必要な歩みであると考えます。

次号は一年間の連載を取りまとめた会報編集委員が記事を通しての思いや期待などをお伝えします。

本人登場

私らしく  
仲間とともに  
No. 232

いまむら まさひろ  
熊本県在住 **今村 雅弘**さん (64 歳)



今村さんは、60歳定年後、小物を忘れることがあり、61歳で再雇用先を退職されました。同じ要件で二度掛けした電話を、不審に思った姉と、精神科医の甥に受診を勧められ、その後大学病院で初期のアルツハイマー型認知症の診断を受けました。

今は、「家族の会」の交流会や新しい趣味など多方面で活発に参加されています。奥様との共同で書かれた原稿から紹介します。

(編集委員 松本律子)

### ● 診断結果より、車の運転ができないことがショック

62歳で診断されたとき、「何で俺が?」という思いはありましたが、認知症の母親が穏やかに過ごしている姿を見ていたので認知症に対するマイナスのイメージがあまりなく、それ程落ち込むことはありませんでした。診断自体より、「車の運転ができない」と言われたことに非常に落胆しました。

### ● 「家族の会」の交流会に参加して仲間もできた

診断をうけた病院から若年性認知症支援コーディネーターを紹介してもらい、「認知症の人と家族の会」を知り、「みどりの小路」～本人・家族交流会に毎月参加するようになりました。

交流会では、歌ったり、スポーツをしたり、おしゃべりをしたりして楽しんでます。そこに行ったら、同じ診断を受けた人と共に頑張ろうと思えるし、自分も勇気を与えることができるかもしれないと思っています。「家族の会」



仏像彫刻作品展で、妻と

で知り合ったご夫婦とは、講演会に行ったり、一緒に食事をしたりして交流を深めています。

### ● 新たな挑戦も

診断後、新たに始めたのは、仏像彫刻のレリーフ作り。妻と一緒に月2回カルチャーセンターに通っています。新しいことを覚えるのが遅いので、習得するのに時間がかかるのですが、工夫することで何とか上げています。2024年は、作品展に出展できました。

料理は昔から好きで、妻に段々お粗末になってきたと言われながら、今でも続けています。自宅が江津湖のすぐ近くなので、天気の良い日は、自然の中、1、2時間ウォーキングを楽しみ、また、月1回、江津湖のごみ拾いボランティアに参加しています。水曜日の午後は、デイサービスで筋トレに励んでいます。

### ● できることはたくさんある

今でも落ち込む時と、負けてたまるかという気持ちで、揺れ動く時があります。でも、「人はいつ死ぬか分からないから、今できることを家族と楽しみたい。診断を受けて制約があるのは、認知症だけではない。先日も運転できなくても公共の交通機関で遠出ができた。まだできることが沢山ある。」と感じています。また、自分の体験談を話すことで、専門職の方々の役に立ったり、まだ診断されて間もない方々に仲間がいることを知ってもらえる機会になればと思っています。

情報  
コーナー

### 本人交流の場 (詳細は各支部まで)

北海道●3月3日◎13:15～15:30  
本人の「つどい」→かでの2.7  
宮城●3月6日◎10:30～15:00  
本人・若年認知症のつどい「翼」→仙台市泉区南光台市民センター  
山形●3月12日◎13:30～15:00  
若年性認知症の人と家族のつどい「なのはな」→さくらんぼカフェ  
茨城●3月22日◎13:00～15:00  
本人交流会→ひたち野リフレ  
埼玉●3月15日◎13:30～15:30  
若年のつどい・越谷→越谷市中央市民会館

神奈川●3月2日◎11:00～15:00  
若年性認知症本人と家族のつどい→横浜市二俣川地域ケアプラザ  
新潟●3月8日◎13:30～16:00  
若年認知症のつどい→新潟市総合福祉会館  
岐阜●3月1日◎11:00～15:30  
あんきの会→土岐市土岐津町・青木宅  
愛知●3月8日◎13:30～16:00  
元気かい→東海市しあわせ村  
静岡●3月18日◎10:00～12:00  
若年性のつどい→ロゼ会議室  
京都●3月23日◎13:30～15:30  
若年性のつどい→ハートピア京都  
兵庫●3月8日◎13:00～15:00  
若年性のつどい→神戸市立総合福祉センター

和歌山●3月16日◎13:30～15:30  
若年性認知症交流会→オークワセントラルシティ内ひかりサロンりゅうじん  
鳥取●3月4日◎15:00～16:00  
本人グループ・山陰ど真ん中→わだや小路  
広島●3月8日◎11:00～15:30  
陽溜まりの会広島→広島市中区地域福祉センター平和ビル  
徳島●3月15日◎13:30～15:30  
縁の会(若年性認知症のつどい)→徳島県立総合福祉センター  
長崎●3月15日◎13:30～15:30  
若年性認知症の人と家族のつどい(諒早市)→小島店諒早病院  
熊本●3月1日◎13:00～15:00  
若年のつどい→熊本県認知症コールセンター



✉ お便りお待ちしております！

〒602-8222 京都市上京区晴明町811-3 岡部ビル 2F

「家族の会」編集委員会宛

【F A X】 075-205-5104

【Eメール】 otayori@alzheimer.or.jp



※お便りのメールアドレスが変わりました

<https://bit.ly/45tj93i>

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

### 認知症関連の本を読んで

千葉県 Aさん (60歳台 男性)

94歳の母が医療療養型病院に入院した事で手が空き、認知症関連の本を読んだ。感銘したのは以下のくだりだ。脳は電気的な器官である。従って脳のどのような神経変性疾患にも、何らかの電氣的治療(例えば、rTMS(反復経頭蓋磁気刺激療法)、40Hz r光点滅療養)が、最も効果的なはずだ。少なくとも誰かの脳へ手当たり次第に、薬を投入するよりはずっと理屈に叶っている、と。人でも将棋でも詰みそうに(認知症末期に)なったら、ありきたりの手段では好転しない。もっと色々な認知症治療法が病院レベルで活用される事を希望しています。

### 知識を深め、仲間と繋がりたい

大阪府 Bさん (50歳台 女性)

父が数年前よりまだらぼけ。

昨年の7月急性腎不全で入院。11月末退院。代謝性脳障害で、母よりも認知症がひどい 要介護4。両親ともに認知症で、同居している長男は仕事をしているので看れない。私が近くに住んで、朝から晩まで介護している。時々行先が不安で潰れそうです。

認知症介護について知識を深めたいと同時に、仲間と繋がりたいです。

### 11月号の大人用の紙パンツを読んで

大分県 Cさん (60歳台 女性)

大人用のパンツは、私も最初は色々な物を買っては試していました。

ある日デイケアの人から「Lサイズを買ってみては」との事でした。それををはかすと、ぴったりでしたが、中のパットは友達に聞いて、5回分～6回分吸収のものをして夜用にしています。

大きなおねしょシートは敷いてその上に主人を寝かしています。冬になると汚すことが多くなり服を着替えさせたりするのが大変です。

紙パンツ用等のその他含めた用紙を市の方に出しましたが、市の方もいろいろな条件があるのでしょう。だからもらえる物ももらえない事かな？

とにかく安い時に買うか、年金を貰った時にいろいろ考えて買っています。いろいろな制度があるけどむずかしいです。



## 主人とともに・・・

島根県 Dさん (女性)

主人と小さいながら会社を経営し、定年後は二人で趣味、旅行とゆっくりと暮らすのが夢で頑張ってきた。71才になった頃、話すこと、やることに、違和感を感じるようになりました。病院へ行くとアルツハイマー型認知症と診断され途方にくれました。オレンジカフェ家族の会にご縁を頂き、アルツハイマー型認知症について、少しずつ理解出来るようになりました。徐々に認知症は進みじぶんの家に居ながら家に帰ろうと言ったり、此処があんたの生まれた家だと説明しても、違うと言って聞きません。よし!じゃあ、あんたの言う家に行ってみよう道案内をして、私が運転して、主人の言う家に出発する。この道を右、次左と道案内するが最後には我が家にたどり着く。本人はそれで安心するということが分かりました。又家に帰ると言えば「ちょっと待ってね、これだけ用事を済ませたら帰ろうね、今日はビールを飲んだから車は運転出来ないからあるいて帰ろうね」と言えば「じゃあ、今日は此処にもう一晩とまろうか」と言い出します。「それもいいかもね」と答えると納得するのか寝る支度をします。夜中のトイレの場所が分からず、失敗を繰り返すこともあり、今は紙パンツをはかせるようにしています。風呂上がりパジャマのズボンの上に紙パンツをはくこともあります。着る服もちぐはぐで笑うしかない時も多々あります。今は要介護2で週に3回送り迎えしていただき3時間位リハビリに通っています。本人も楽しみにしている様子ですが、何をしたのか聞いても何も覚えていません。けれども笑顔で出て行き笑顔で帰ってきます。皆さんにご迷惑をかけながらも、支えて頂き有り難いと思っています。これから先、認知症は進んでいくことと思います。これがベストだという介護の答えはなく、私も心の余裕がな

いま、多くの人の助けを借りながらの日々ですが、主人とともに歩んでゆこうと思っています。

## 父の介護を振り返って

埼玉県 Eさん

振り返ってみると、(父の) 心臓の疾患にもっと早く気づけなかったものかと思われま。また令和5年の1年間で認知症が急に進み、その対応、例えば紛失したものの再発行など事務的なことに手間を取られてしまい、本人の気持ちに寄り添っている時間が無かったことも悔やまれます。父は認知症になってからも性格はほとんど変わらず、嫌なことをすぐ忘れてしまうせいかな穏やかなものでした。(中略) 幼少時からずっと同じ場所に住んでいたためかもしれません。またもともとすぐ感情をあらわにし、思ったことをぱっと口に出す性格だったからかもしれません。父の介護に取り掛かるのが遅くなってしまった一番の理由はなんと言ってもコロナ禍のせいです。そうでなければもっといろいろなことに取り組めたでしょう。母の介護を始めた時と比べると、保険外のものも含めてさいたま市内で頼るべき事業所は本当に増えたと感じました。



1月号 Aさんのお便りの文中「退院後」とあるのは「即入院」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

※お名前はイニシャルではありません。年齢は「50歳台」等で表記しています。